19日，20日……曇及雨，

21日(16時50分)…… 東緣南 40° にアーチ形の靜止狀紅焔あり，相當美事なものであつた．(第4圖)

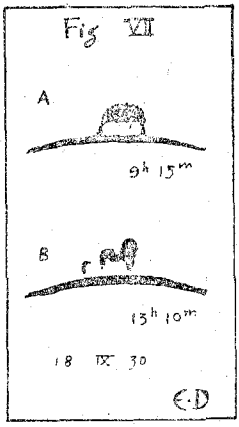
22日，23日……欠測．

24日(15時20分)……東緣南 5° の所に1ケ，西緣南 40°, 60°, 80° に各小紅焔あるのみ．

25日——28日……曇天及欠測 (12日西沒せる大黑點はこの間に再出現した模樣で，從つて，これに附隨した大紅焔も東緣出現は見る事が出來なかつた)．

29日(9時20分)…… 東緣南 38° に靜止狀の大紅焔が見られ，非常に光輝强く，スリットを，紅焔全形が見られる位幅廣くしても，相當明瞭に認め得る位輝かしいもので，恐らく明日も觀測し得る事と豫想される．(第5圖)

30日……豫想通り，昨日の大紅焔は殆んど同じ位置 (但し太陽赤道の南傾せる爲，稍南へ寄る) に見られた．本日は快晴の爲，この大紅焔の光輝一しほ明るい．但し靜止狀である爲，形狀に大差はない．午後も大差を認めず．(第6圖) 今1つ，西緣南 18° の位置に，上述のものに比し，光輝はグツと弱いが，奇妙なアーチ形の噴出狀紅焔あり，短時間の變形を豫想して數回に渉り連續觀測を行ふ．



(9時15分)……典型的なアーチ型．基部2本．

(13時15分)……上部は千切れて南方へ飛び，且，上方へ擴がる．彩層とは絕緣．(第7圖)

(14時25分)……最早や紅焔らしき物を認めず，完全に消失す．

西緣北 45° に小紅焔あり．(以上)

補註 1) 位置角は，太陽角經緯度圖を使用して修正濟の値なり．

2) 視相劣惡なる場合は紅焔の正しき形狀を捕捉し難く，觀測を中絕せる場合あり．

3) 淡雲 (卷雲，卷層雲の如き) 蔽ひたる場合，紅焔非常に見難くなり，從つて淡光の紅焔及小型の紅焔は消失する懼れあり．

4) 紅焔は，近來 Pettit により，活動性，噴出狀，黑點型，龍卷性，靜止狀の5種類に細別され．尙今一層細分類されんとしてゐるが，筆者は，當分紅焔觀測に熟達する迄，從前通り，**噴出狀**，**靜止狀**の2種類を使用するものとす．　—18—9—30—

新彗星の發見　年末，コペンハーゲンからの電報によれば，米國オハヨ州のアマチユア天文家ベルテヤは，水瓶座に一新彗星を發見した由．十二月17日の概略位置は，赤經 23^h20^m，赤緯 $-16°$ で，西北へ徐行してゐる．光度は7級．詳細は本會急報を見られよ．(1943—12—21)